

帯状疱疹になったらすぐにオゾン治療を！！

連載「オゾン療法はなぜ様々な病気に聞くのか」の中で、13号ではオゾン療法を用いて治療した実症例を紹介しました。今回も帯状疱疹の治療例を紹介致します。

筆者はオゾン療法界きってのベテラン、治療歴40数年になる横浜市山下公園クリニックの小島悦子先生です。先生は、戦前に日本のオゾン療法の基礎を築いた尾川正彦氏の系統をひく世田谷区駒場の神泉クリニックで、オゾンガス皮下注射法の技術を学び、2001年にはドイツ、シュライバー博士（アイシュタイテン/アウクスブルク、現ドイツオゾン療法学会理事）に就いて大量自家血液オゾン療法を学び、その知識で日本へのドイツオゾン療法を導入・普及に尽力し、オゾン療法の今日の発展に寄与した功労者の一人です。

帯状疱疹になったらすぐにオゾン治療を！！

山下公園クリニック 小島 悦子

最近、海外からワクチン接種後に、帯状疱疹のリスクが上がるという報告がありますが、当院でも帯状疱疹に罹患する患者さんが多くなってきました。まず、特に印象に残った76才女性の声を聞きましょう。

【症例Ⅰ】 76才 女性。コロナワクチン2回目を受けてから重症の蕁麻疹となり、虎の門病院でステロイド療法を約半年続けた結果、蕁麻疹の方は一応おさまりましたが、右胸部と背中にかけて有痛性の発疹が出現、激しい右肩の痛みがあり、ゴールデンウィーク中の緊急外来で大学病院を受診。彼女は大学病院で強中弱の3種類の鎮痛剤を貰った時、長期（1～2年）に痛みが続けば、肝臓と腎臓を悪くするのでは？と質問をしたところ、医師は「ヒトというものは激しい痛みを耐えていると、うつ病を併発することもあるから我慢せずに、鎮痛剤を飲むこと」と答えました。彼女は、自分の身体を守るにはどうすれば良いか悩んだそうです。当院に足を運ぶ切掛けは、当院を紹介した方から「ブラジルのコンラッド医師の学会発表（1985年）で、帯状疱疹治療にオゾン療法が効果的」との説明、があつてのことでした。その後、当院受診に至ったのだそうです。

大量自家血液オゾン療法及び**低濃度オゾン皮下注射**を行った結果、帰る頃にはあれほど痛かった胸部肩の痛みが著しく軽減、横浜に来て良かったとの実感でした。週2回、計10回の加療により、発疹も水泡を作ることなく消失、全快しました。

症例1でのオゾン使用量は以下の通りです。

大量自家血液オゾン療法：オゾン濃度 $20 \mu\text{g/ml}$ のガス 100ml を血液 100ml にバブリング。生成オゾン化血液を約 30 分かけて患者に戻した。

低濃度オゾン皮下注射法： $4 \mu\text{g/ml}$ のガスを 10 ml のシリンジに採取、27 ゲイジの針を用いて発疹部皮下に 2 ml ずつ注入、および、痛みを訴える筋肉部分に 1 ml ずつ、計 $10 \sim 15$ カ所に注射。

【症例Ⅱ】 当時 70 才女性。 2 年前に帯状疱疹になり、以来、患部 (背中) の筋肉痛が消えず来院しました。痛みを訴える筋肉の硬縮部位と皮下に**低濃度オゾン注射** ($4 \mu\text{g/ml}$ オゾン含有ガスを 1 ml ずつ皮下に 10 ml 、筋肉内に 1 ml ずつ 3 カ所) をすること、2 回で 2 年前からの痛みが消失しました。

【症例Ⅲ】 35 才 男性 重い帯状疱疹にかかり 2 週間経過するも左肩から胸部にかけ水泡が化膿し、ぐじゅぐじゅの状態でも来院、低濃度オゾンの**局部注射**と**自家血液オゾン療法**により 2 回の施術でほぼ全快しました。皮下注射には $4 \mu\text{g/ml}$ オゾン含有ガスを化膿した発疹部に $1 \sim 2 \text{ ml}$ ずつの局注、計 20 ml を使用しました。

なぜオゾン治療がこんなに帯状疱疹に効果があるのでしょうか？

帯状疱疹は、過労やがんなどにかかって免疫力が下がった時に発症すると言われております。最近、コロナワクチンを何回も注射した人に、帯状疱疹に罹患する方が多くおられます。コロナ禍の帯状疱疹にオゾン治療が高効果的であることは、オゾン療法が免疫力を上げることが出来たことの実証であり、いかにコロナワクチンによって免疫力が下がってしまっていたかの証明になっていると思います。

又オゾンは細菌に対して強力な殺菌力があると同時にウイルスに対しても (エイズウイルスに対してさえ) 効果があると言われております。しかも抗生物質のように耐性菌を作ってしまうようなこともありません。帯状疱疹になる方は免疫力が下がっている為に、水泡が化膿しやすく抗生物質も効きにくいことが多いのです。オゾン治療を早期に施術すれば発疹は水泡になることもなく消失してしまいます。

低濃度オゾンガスの皮下筋肉内注射がなぜ痛み即効性があるのでしょうか？

帯状疱疹は水痘・帯状疱疹ウイルスによる炎症が筋肉に波及し、炎症が強い場合は筋肉の硬縮が残ります。こうした部位にはリンパ液の水溜りのようなものが出来ており、痛みを発しているものと思われれます。このリンパ液の溜りにオゾンガスが適格に注射されると、ジューという音がして、同時に痛みは消失します。

東洋医学で一般にツボと呼んでいる場所はこのリンパの溜まり易い交差点のことだと私は考えています。ここを刺激することにより溜まっていたリンパが流れ、周囲の浮腫が解消することにより痛みも取れ、同時に毛細血管も開き正常の血液の流れが各臓器へと導かれ、あらゆる症状が回復へと向かうのではないのでしょうか。

終わりに

これまで健康に過ごしてきた高齢者であっても、検査データだけで今や病院は病気を作り患者を作る所となっているようです。例えば、昔は、収縮期血圧は「年齢+90」が目安とされるなど、医師は患者さんの年齢によって適宜補正して考えるのが当たり前でした。ところが血圧の基準値は次第に引き下げられ、年齢による補正も一切考慮されなくなったのです。同様にコレステロールも女性は年齢が増すとともに上昇するのが自然現象なのに、性差も年齢も関係なく基準値が設けられ、少しでも高くなれば高脂血症として薬が出されるのが当たり前になってきました。残念ながら、病に到った食生活、悪習慣等の注意指導は殆どなされていません。楽しく、ポジティブに暮らすこと、そして、出来るだけ薬なしで暮らせるように指導する事が治療ではないでしょうか。

今回は帯状疱疹について、オゾン治療の効果を書きましたが、40年余り毎日オゾン治療を行って来て、このオゾンさえあれば、ほとんどの病の予防と治療が出来るのではないかと確信するようになりました。特に現代医療ではなかなか治りにくい潰瘍性大腸炎や各種の膠原病にもすばらしい効果があります。大学病院などで大量の薬を使われ、その副作用に苦しめられている難病の患者さんが来院され、薬をすべてやめ、オゾン療法のみで劇的に改善される方が多くおられます。

このすばらしい療法に関して一人でも多くの先生方が興味を持ち学んでいただき研究していただき、更なるオゾン治療の開発が出来たらと切に願うものです。今や医療にも大きな利権がからんでいることに国民は気付き始めています。オゾン療法普及に立ちほだかる諸々の原因にもっと世論の批判が高まり、オゾン療法が医療に正規に登場出来ることを切望しています。ご意見をお寄せ下さい。